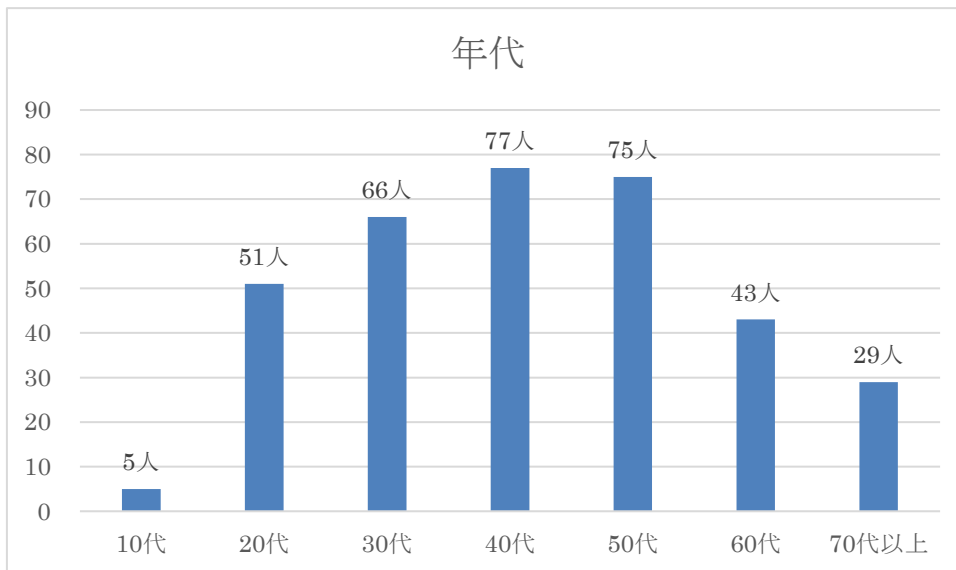
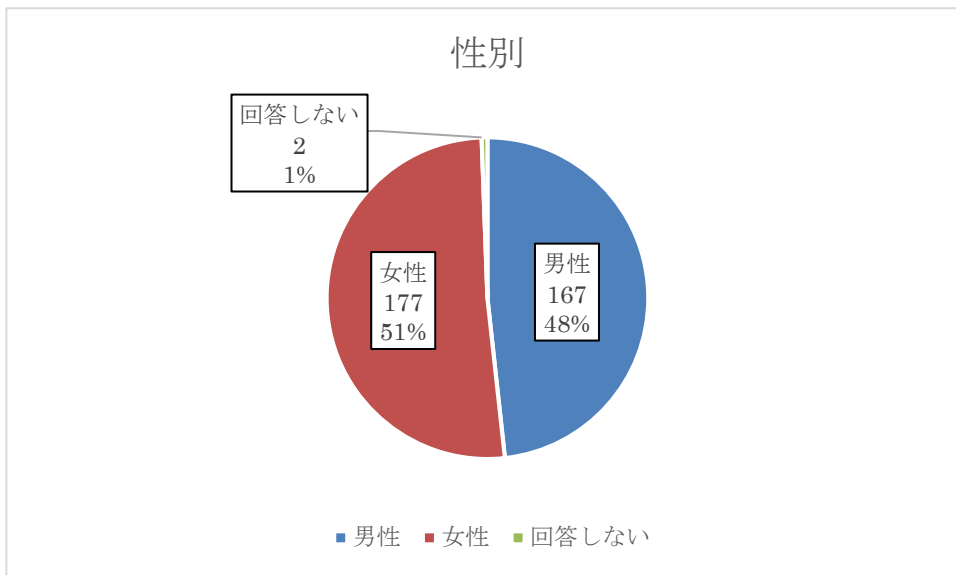


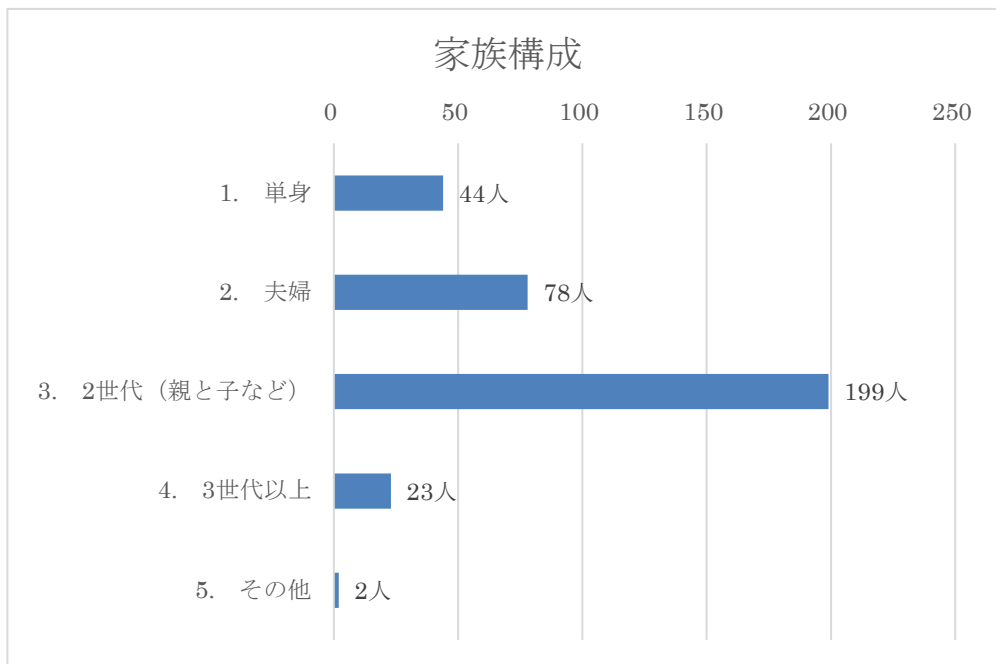
# 令和4年度 第8回 とよはしインターネットモニターアンケート調査結果

テーマ 「終活に関するアンケート調査」  
調査期間 令和5年1月18日（水）～令和5年2月1日（水）  
回答者数 346人  
対象モニター数 400人  
回答率 86.5%

※ 百分率の値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、割合の合計が100%にならない場合があります。

## 【属性】





## 概 要

### 1. 調査の目的

本市では、令和4年度から終活に関するセミナーの開催や、エンディングノートの配布を行っています。終活は、高齢者だけでなく親族と一緒に考え、協力することも必要であるため、若い世代を含めた認知度やどのようなサポートが必要であるかを把握するためアンケート調査を行いました。

### 2. 終活への関心

「終活」は97%、「エンディングノート」は88%の方が知っており、認知度は高い回答結果でした。ただし、実際に終活に取り組んでいたり、エンディングノートを持っていたりする方は1、2割程度と低く、終活に積極的に取り組んでいる方は少数でした。

### 3. 老後の住まいと人生の最期を迎える場所についての意向

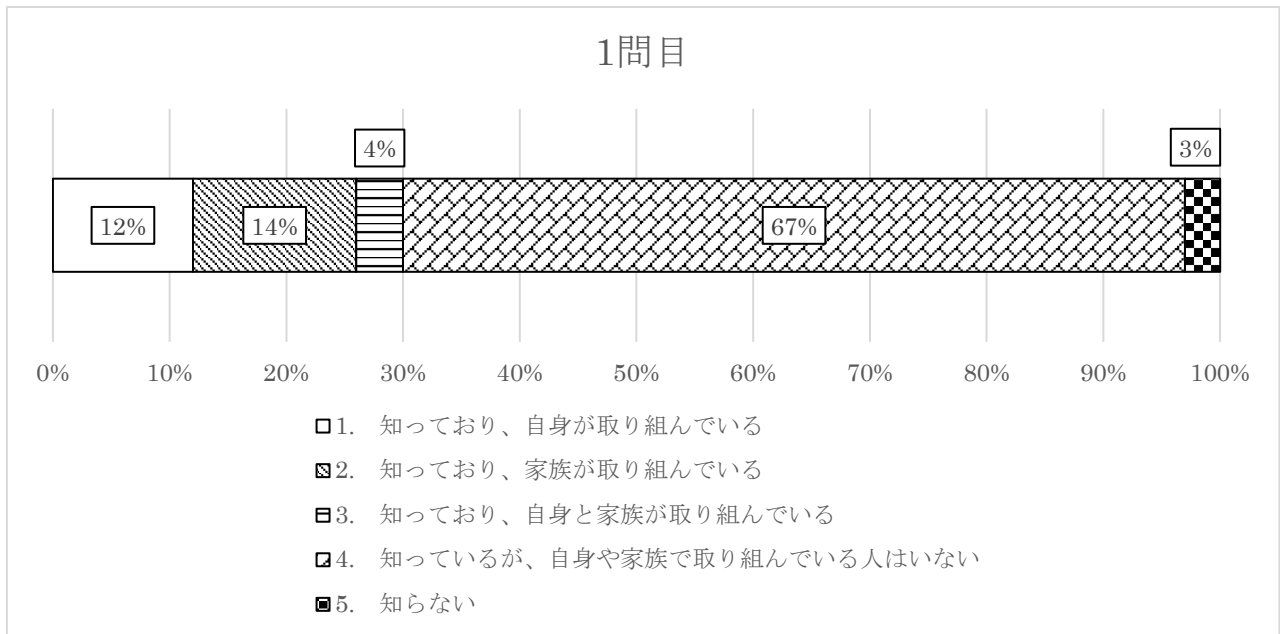
人生の最期を迎える場所として自宅を希望する割合が最も多く、病院や老人ホーム等の約2倍となっています。一方、老後の住まいについては、常に介護が必要になったら老人ホーム等を希望する割合が自宅の4倍以上になりました。まだ介護が必要ではない世代の方では老人ホーム等を多く希望しており、介護が家族の負担になることを敬遠する方が多いものと推測されます。

### 4. 終末期の医療や介護についての話し合い

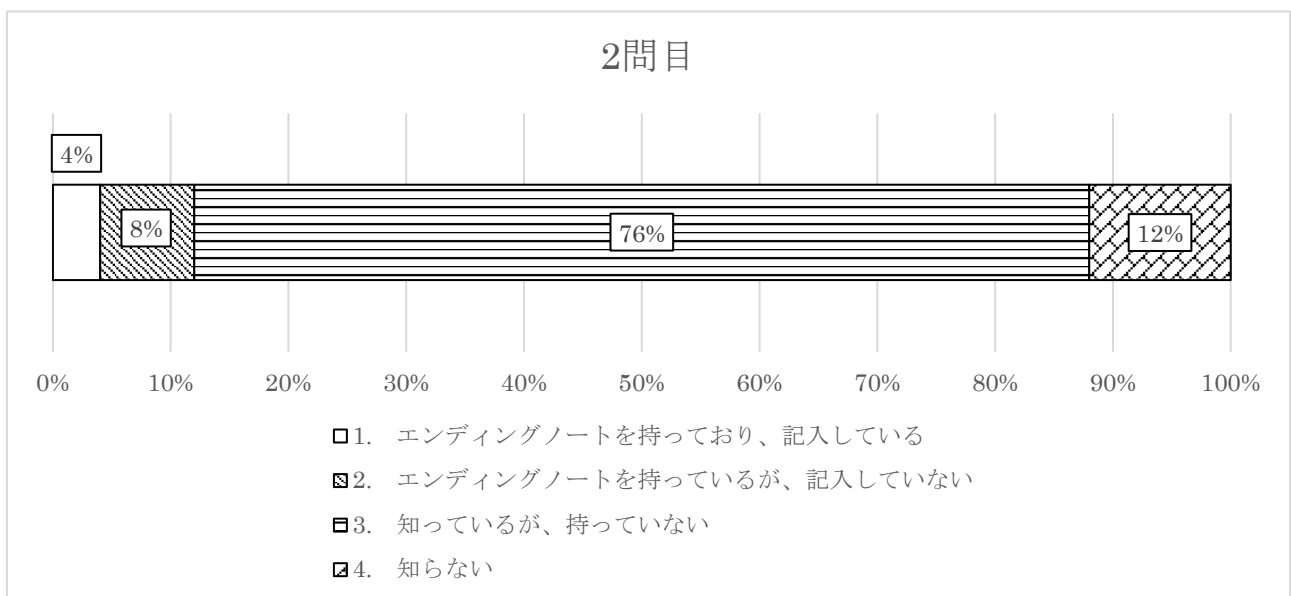
「ACP」や「人生会議」という言葉の認知度は低いですが、終末期の医療や介護について考えたことがある方は約6割と関心は高い回答結果でした。また、情報提供等を希望する内容として、医療や介護に関する内容が上位になりました。

エンディングノートを活用すると、終末期の医療や介護について考えたり話し合えたりすることができるので、医療や介護に関する情報提供と合わせて、エンディングノートの普及を図ることで、終活に取り組む方を支援したいと考えます。

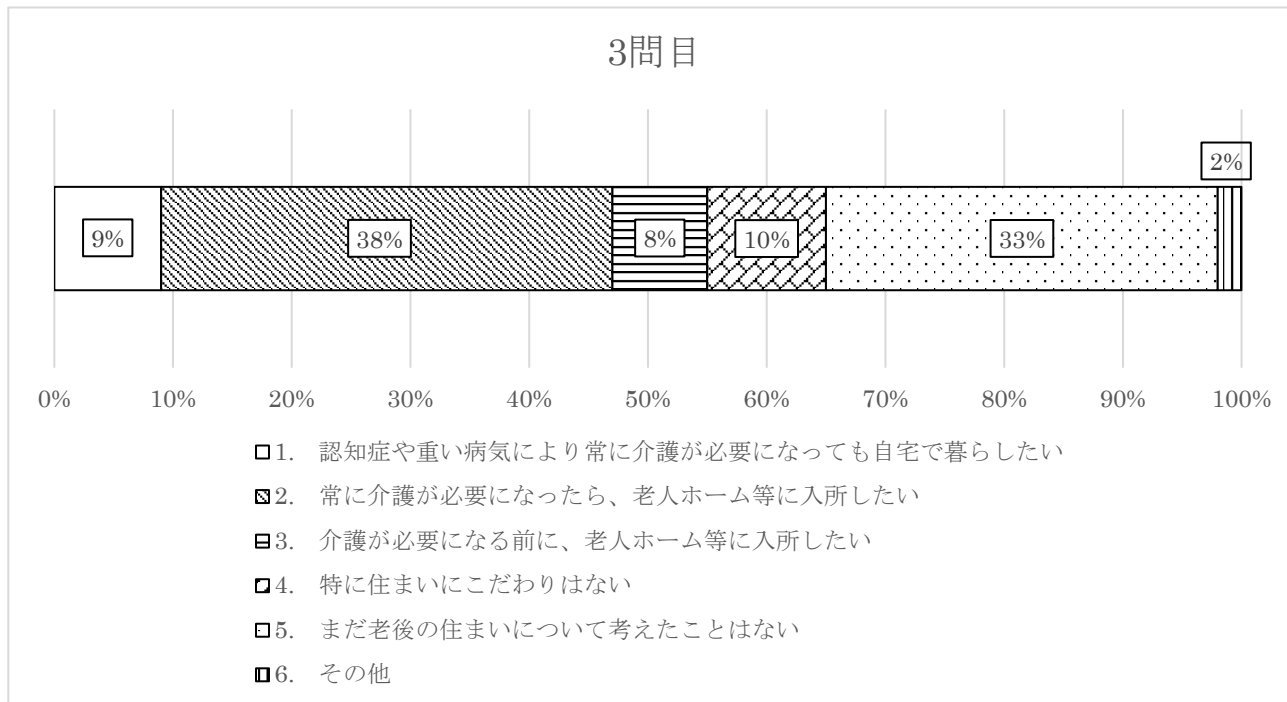
**設問 1.** 自らの老後や死後に備えて、医療や介護、相続や葬儀等のことについて考えて準備をすることを「終活」と言います。あなたは、「終活」という言葉を知っていますか。(n=346)



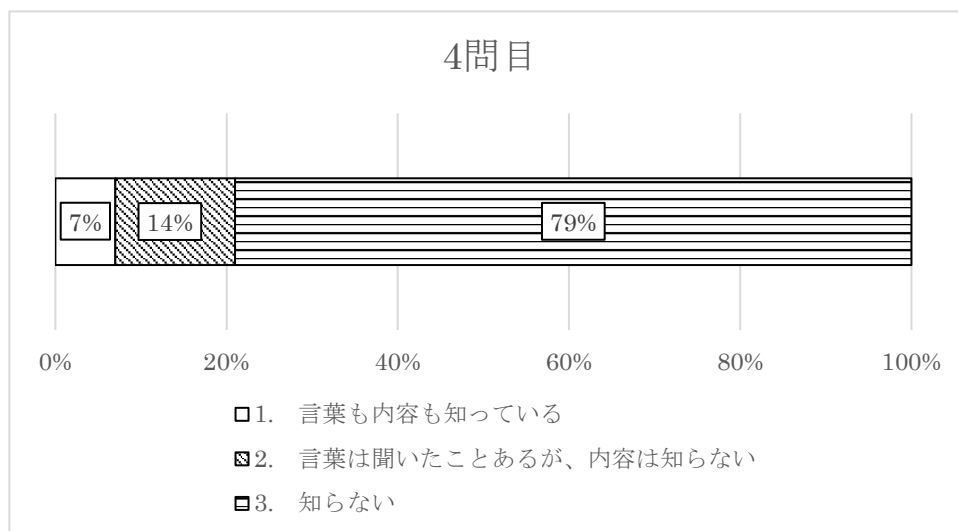
**設問 2.** 自分の老後や死後についての希望を記入し、終活を計画的に進める手引きとして「エンディングノート」を作成する人が増えています。あなたは、「エンディングノート」を知っていますか。(n=346)



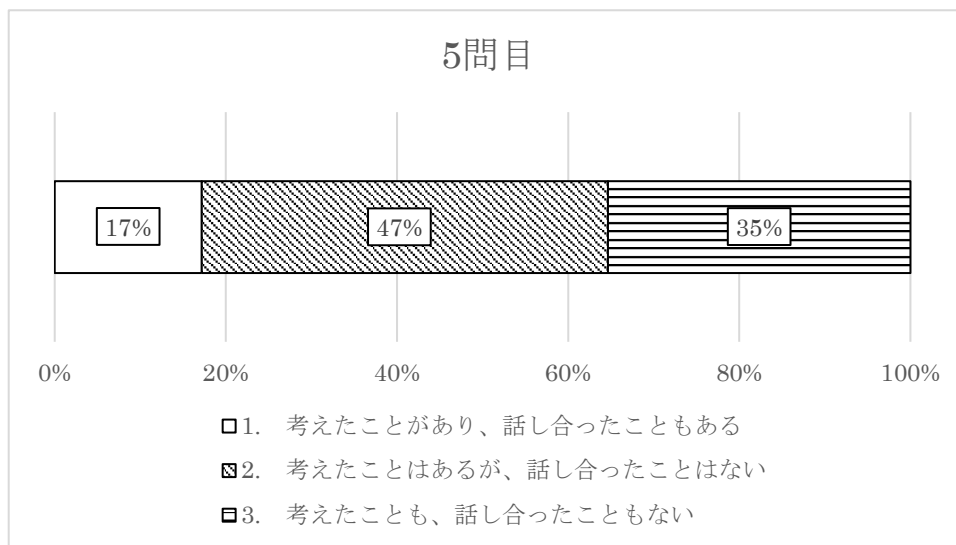
設問 3. 老後の住まいについてどのようにお考えですか。(n = 346)



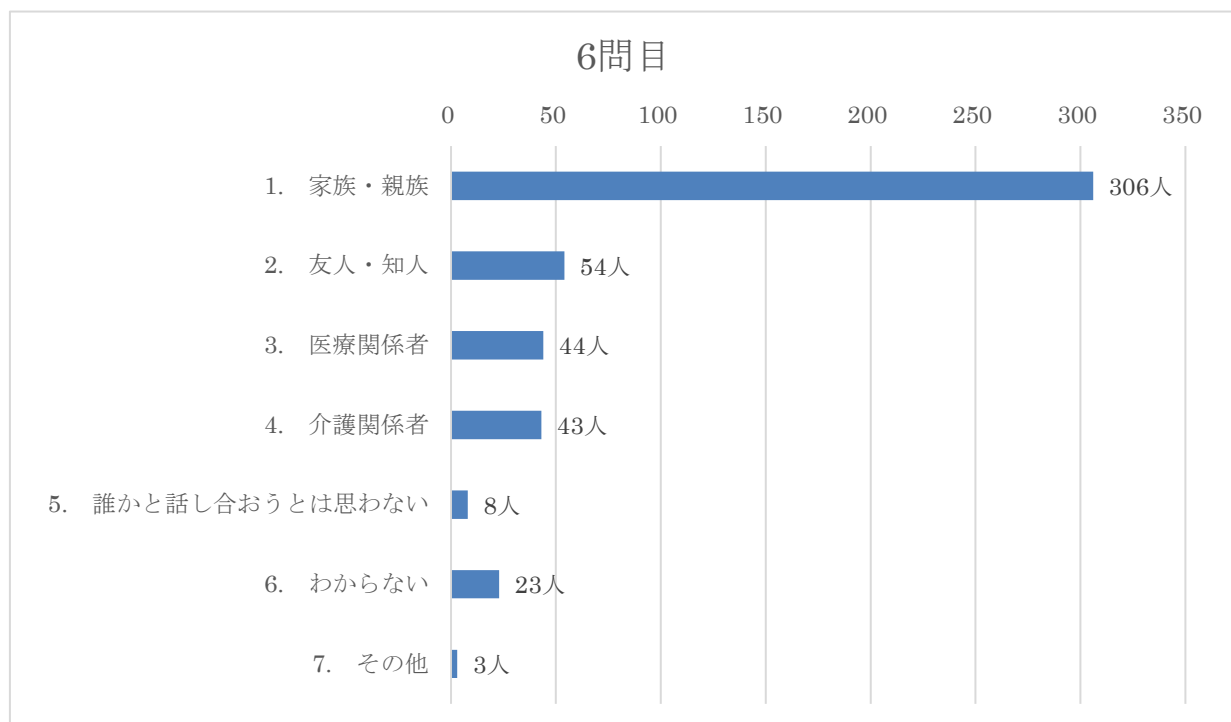
設問 4. 人生の最終段階（終末期）における自身が希望する医療や介護のことについて、前もって親族や医療・介護関係者と繰り返し話し合い、共有する取り組みのことを「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」と言い、厚生労働省では「人生会議」という愛称を付けて啓発しています。あなたは、「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」や「人生会議」という言葉を知っていますか。(n = 346)



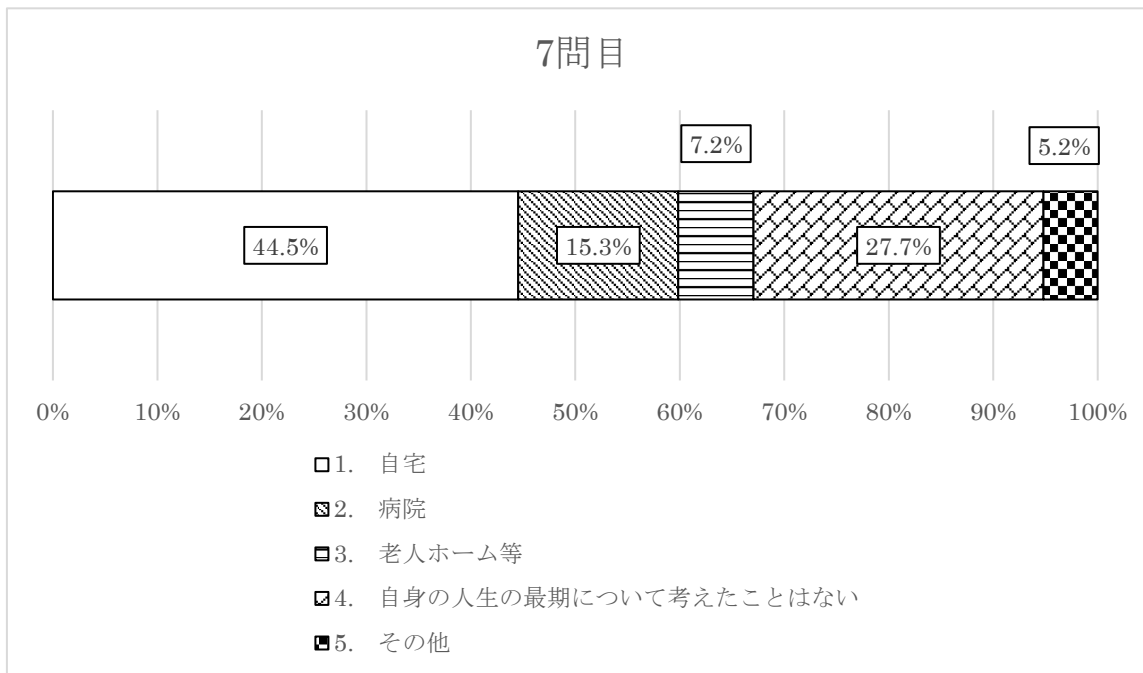
**設問 5.** 自身の終末期における医療・介護について考えたことや話し合ったことがありますか。(n = 346)



**設問 6.** 5問目で「1」と回答した方は、どなたと話し合いをしましたか。また、「2」もしくは「3」と回答した方は、話し合いをする場合は、どなたと話し合いをしたいと思いますか。(複数選択可)

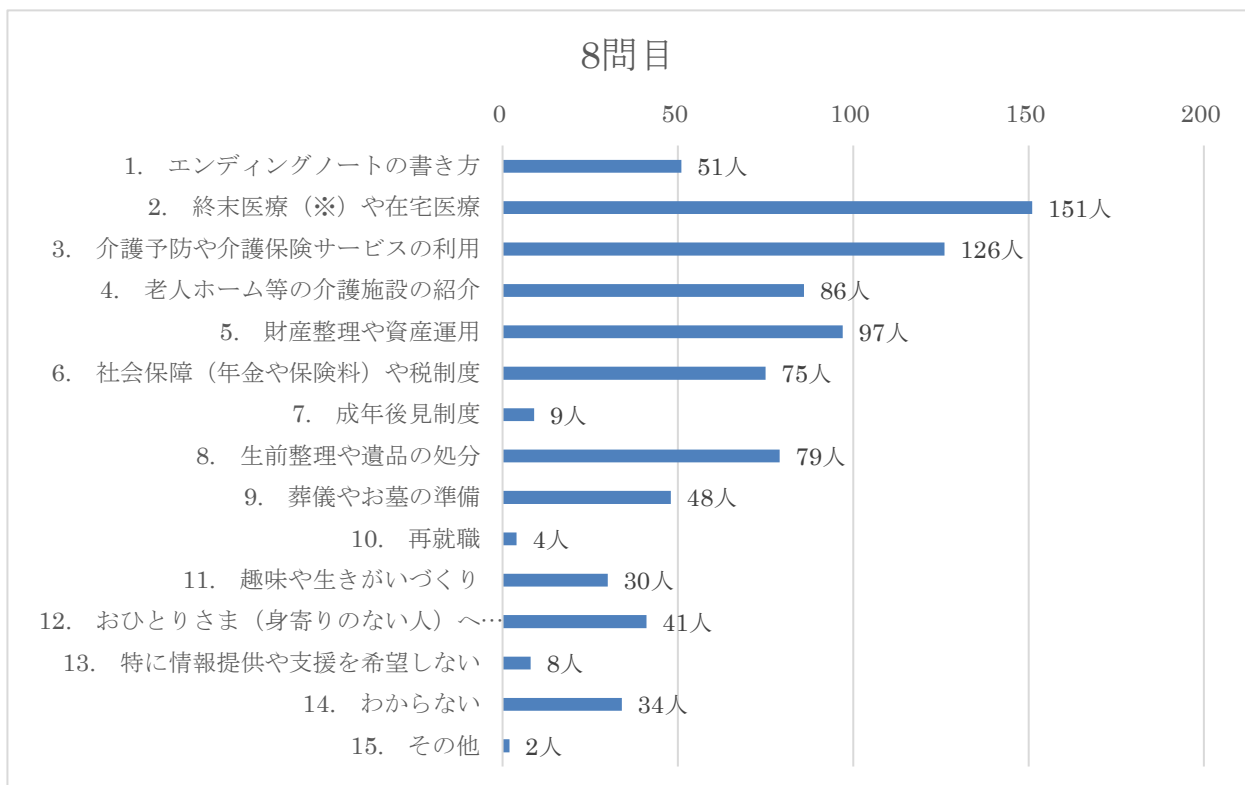


設問 7. 自身の人生の最期を迎える場所はどこを希望しますか。(n = 346)



設問 8. 自身や家族が終活に取り組む際に、どのような情報提供や支援を希望しますか。(複数選択可)

※「終末医療」とは、残された余命を平穏に過ごすことができるように行うケアのことをいいます。



**設問 9.** 「地域包括支援センター」は高齢者の総合相談窓口として市内に 18 か所あり、介護や医療をはじめ、終活についても相談をすることができます。あなたは、「地域包括支援センター」を知っていますか。(n = 346)

